

学校教師の読書実態と読書意識に関する研究

中 島 正 明

A Study of the Attitudes towards Book Reading of School Teachers

Masaaki NAKASHIMA

I：研究の目的

子どもの本ばなれ、読書ばなれが指摘され深刻な問題として取り上げられるようになったこと
に対して、1990年代以降、子どもの読書活動を推進する一連の施策が展開されてきた。

ところが、子どもの本離れ、読書ばなれはすでに40数年前から存在している。¹⁾ 昭和29 (1954)
年から実施されている「学校読書調査」を元にして、一ヶ月に一冊の本を読まない者（不読者）
の推移を見ると、読書ばなれは決して近年になって生じた現象でないことがわかる。高度経済
成長を背景とした国民生活の急激な変容、マスメディアの普及や高度情報化社会の到来などは、
それにいっそう拍車をかけたかもしれない。子どもの本ばなれ、読書ばなれは、戦後、一貫して
確実に増大してきた。それは、今日でも継続している重大な課題である。

学校教育に目を向けると、昭和26 (1951) 年～平成20 (2008) 年の間に学習指導要領は7度改
訂されてきた。子どもの読書環境に関わる事項として学校図書館に関する指導は、学校教育及び
教師の責任事項として学習指導要領に明確に位置付けられてきた。そこには、戦後の教育の民主
化に伴って誕生した学校図書館を学習指導に活用して教育的成果を上げることへの期待が込めら
れていた。しかし、読書に関する指導は、総則でなく、第2章教科の国語科の中で一貫して取り
扱われてきた。²⁾

-
- 1) 資料1参照。そこには次のような傾向が認められる。(1) 不読率が50%を超えるのは、中学3年生
ではすでに1966年から、高校生で1969年から認められる。(2) 高校生で不読率が60%を超えるのは
1980年代初めから、70%を超えるのは1990年頃からである。(3) 中学生で不読率が60パーセントを超
えるのは1980年代半ばからである。(4) 小学生では不読率が30パーセントを超えたことはない。

資料2参照。一ヶ月間に読んだ本の冊数は、小学生を除いて、40年前よりも少なくなっている。

- 2) 昭和26年小学校学習指導要領国語科編（試案）改訂版では、「第2章国語科の内容 第一節 おもな
言語経験にはどんなものがあるか 三 読むことの経験」において「13 知識や情報をうるために本を読
む。14 楽しむために本を読む。15 図書館を利用する。」と一つの項目を設定して国民の生活と読
書との密接な関係について触れている。

昭和33年改訂の学習指導要領では「学校図書館の資料や視聴覚教材等については、これを精選して
活用するようにすること」(第1章総則第2指導計画作成および指導の一般方針2(6))と規定されている。

昭和43年改訂では、「第1章総則第1 教育課程一般8 以上のほか、次の事項について配慮するも
のとする。(3)教科書その他の教材・教具を活用し、学校図書館を計画的に利用すること」と規定され
ている。読むことの指導は、第2章教科 国語において各学年の目標として設定されている。昭和52
年版学習指導要領においても同様な取扱いである。

読書指導が、学習指導要領の総則において初めて取り上げられたのは平成元年（1989）改訂時である。第1章総則，第5指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項2の(9)において「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り，児童の主体的，意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」（下線は筆者）と規定された。つまり，指導計画の作成に当たって学校図書館の活用と読書活動の充実とが配慮すべき学校教育の課題として位置付けられた。このことは，読書指導は国語科だけの担当でなく，すべての教師の取り組むべき事項であることが宣言されたものと解釈される。

平成元年（1989）改訂学習指導要領の趣旨は，国による学校図書館蔵書整備5カ年計画（1992年度～），国際子ども図書館の設立（2000年），子どもの読書活動の推進に関する法律制定（2001年12月）など，さまざまな行政的取り組みによって具体化されていく。その結果，2000年以降各学校段階において不読者の割合が減少傾向に転じた。³⁾ それでも，2007年度の調査では中学校で11.9～35.3%，高等学校では40.6～60.5%が不読者として存在する。こうした本を読まない中・高校生に対して，「第50回学校読書調査」では，教師や親の読書の勧めが本ばなれの「最大の決めて」⁴⁾「処方箋」として指摘されており，学校教師による指導の重要性が期待されている。

学習指導要領に規定された目標を実現するのは教師の役割であり，その役割について目を向けて，教師の読書実態及び読書意識に関する研究について文献調査をしてみると，教師自身の読書観や読書実態に関するものが乏しいことがわかった。ほとんどが教師による子どもの読書に関する「指導」に関わるものであった。⁵⁾ 最近の取り組みとして「児童生徒，教師，父母の読書調査〈特集〉」は教師を対象とした調査として注目されるが，教師自身の読書意識を取り扱ったものでなく，子どもの読書に対する教師の意識調査である。子どもの読書に関しては精密で長年にわたる調査が実施されているにも拘わらず，教師の読書実態および読書意識についての調査は見あたらない。

そこで，本研究では，国民の読む力の形成に関して責任を持つ学校教師の読書に関する現状および読書指導に関する理解と意識を明らかにすることによって，学校教育における読書指導の課題解決にむけての方策を探ることを目的としている。

Ⅱ：研究の方法

1. 本研究では，学校教師を対象にして同じ質問内容の調査をA，B2つの地点で実施した。各調査についての概要は，次の通りである。

(1) 調査日時及び対象：

A調査は，2006年8月1日～8月20日にかけて，広島県A市立の全小中学校の全教員を対象に

3) 資料1参照。資料2参照。ただし，小学生を除いて，一ヶ月間に読んだ本の冊数は40年前よりも少ない。

4) 毎日新聞社『読書世論調査2005年版』第58回読書世論調査 第50回学校読書調査 2005，130頁。

5) NDL-OPACで「教師」and「読書」で検索すると53件（2009年9月1日現在）。その中に，教師対象の調査として次の3点が認められる。

①教師自身が読書好きに（子供を本好きにするために〈特集〉）－（このようにして子供を本好きにした）千葉 金二『学校図書館』215 [1968.09] p 29, 32.

②中学校－教師の読書観の確立を（子どもの読書環境づくり〈特集〉）－（読書環境づくりのくふう）仲田紘基『学校図書館』347 [1979.09] p26, 28.

③児童生徒，教師，父母の読書調査〈特集〉『学校図書館』533 [1995.03] p17, 39.

表1 調査の概要及び回答者の属性 (斜体は人数, それ以外は%)

		A 調査				B 調査	
属 性		教諭		管理職		司書教諭・ 図書館担当者	
		小学校	中学校	小学校	中学校		
調査の概要	配 布 数	379	279	70	40	217	
	回 収 数	337	168	56	32	217	
	回 収 率	88.9	60.2	80.0	80.0	100.0	
	有 効 回 答	336	163	56	32	216	
	有効回答率	88.7	58.4	80.0	80.0	99.5	
	性別	男	33.6	60.7	62.5	90.6	6.0
女		66.4	39.3	37.5	9.4	94.0	
基礎的事項	教職年数	1 年	3.9	2.5	0.0	0.0	0.5
		2 年	3.0	3.1	0.0	0.0	1.4
		3 年	2.1	1.8	0.0	0.0	2.8
		4 年	4.2	1.8	0.0	0.0	3.2
		5 年	3.9	1.2	0.0	0.0	2.8
		6 年	3.0	3.1	0.0	0.0	0.5
		7 年	3.0	4.3	0.0	0.0	1.4
		8 年	3.0	1.8	0.0	0.0	1.9
		9 年	2.7	0.6	0.0	0.0	0.5
		10～19年	21.1	16.6	1.8	0.0	15.7
	20～29年	37.8	55.2	28.6	43.7	46.8	
	30年～	12.5	7.4	69.6	56.3	21.3	
	担当又は得意な教科	無 答	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
		国 語	17.6	18.4	23.2	3.1	42.1
算 数		27.4	17.2	16.1	12.5	13.0	
社 会		6.8	9.2	14.3	9.4	5.6	
理 科		7.4	9.8	14.3	31.3	3.7	
図 工		7.7	5.5	3.6	0.0	8.3	
音 楽		9.2	4.9	5.4	0.0	8.3	
体 育		11.0	9.8	16.1	12.5	19	
家 庭		2.1	3.7	0.0	0.0	3.2	
道 徳		3.0	0.0	1.8	0.0	0.0	
生 活		0.9	0.6	1.8	0.0	0.9	
英 語		1.8	13.5	0.0	18.8	0.0	
その他		3.3	7.4	3.6	12.5	0.0	
無 答		0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	
人数 (人)		336	163	56	32	216	

して実施した。郵送留置法によって各学校へ配布・回収した。

B調査は、2006年8月1日、広島県B市立小中学校司書教諭及び図書館担当教諭を対象にして実施した。学校図書館に関する研修会の終了後、会場で調査者が直接の配布・回収した集合調査である。

(2) 調査票の回収状況：

表1参照。

A, B 2つの調査への回答率は、中学校教諭を除いて80%以上であり、きわめて高い結果となった。学校教師を対象とした調査としては予想外に高い回収率であった。

回答者の性別について見ると、A調査において、小学校教諭と管理職で男女比がおおよそ1対2の割合を示している。ところが、中学校教諭では男女比が3対2、管理職では同9対1であり、学校段階によって相当異なることがわかる。B調査ではほとんどが女性である。

教職年数については、管理職で30年以上が小中学校ともに過半数を占めて

いる。20年未満の管理職は小学校で1人だけである。

A調査の教諭についてみると、中学校教諭では20年以上が62.6%を占めている。B調査では20年以上が68.1%を占めている。

教職年数10年未満は、A調査小学校教諭28.8%中学校教諭20.2%、B調査で15.0%と回答者に占める割合が低い。

今回の回答者は、教職年数が長い教師の占める割合が高いことが注目される。

得意な教科又は担当教科については、国語、算数（数学）、体育、英語、理科などが指摘できる。B調査での司書教諭・図書館担当教諭は42.1%が国語と回答している。

中学校管理職では、国語3.1%に対して理科31.3%英語18.8%と、他の属性とは異なる結果が示されている。

(3) 調査内容：調査の内容は、次の5項目で構成した。（資料3参照）

- ①基礎的事項（所属学校種、性別、教職年数、得意な教科又は担当教科）
- ②読書に関する観念（10項目3段階評定尺度）
- ③読書指導に関する意識（27項目3段階評定尺度）
- ④学校図書館活性化の条件（8項目順位づけ）
- ⑤調査の先月一ヶ月間の読書冊数（実数回答）

Ⅲ：調査結果の概要

1. 読書の実施状況

今回のAB調査に回答した全教員の読書冊数の平均は3.49冊であった。また、調査月である8月の前の一ヶ月間に一冊も読まなかった教員は55人（2.0%）であった。

表2は、属性・教職年数別にみた一ヶ月間の読書冊数の平均値を示している。平均冊数をみると、図書館担当が4.9冊、小学校教諭3.7冊、中学校管理職3.0冊と続く。中学校教諭は2.7冊でもっとも低い。

教職年数別では、小学校教諭で21～25年が4.9冊、26～30年で4.0冊、中学校教諭で16～20年3.1冊、26～30年で3.0冊など、教職経験年数の多いほうが高い数値を示している。

教職年数による読書冊数の分布をより具体的に把握するために、属性ごとに図1～図5で冊数分布を示した。

教諭についてみれば、図1と図2から、教職年数15年未満での冊数が少ないこと、20～30年で読書冊数が増加し、35年以上になると再び減少している。小学校教諭では、教職年数15年を境にして2つのグループに分けられる。教職年数15年以前の年代は5冊程度に分布しているのに対して、

それ以後の年代は読む冊数が5冊よりも多いところに分布している。月に10冊以上読むと回答した教諭の8割が教職15～30年の間に属していること、月に15冊以上読むと回答した教諭が7人いることなど注目される。

表2 教職年数別にみた読書冊数の平均 数値は%（ ）内は人数

勤続年数	小学校 教 諭	中学校 教 諭	小学校 管理職	中学校 管理職	司書教諭・ 図書館担当
1～5	2.6	2.1			3.2
6～10	3.0	2.4			8.1
11～15	3.4	2.8			3.7
16～20	3.6	3.1	4.0	3.0	4.4
21～25	4.9	2.9	4.4	2.0	4.8
26～30	4.0	3.0	3.3	2.6	8.0
31～	3.6	2.0	4.3	3.6	3.3
平均冊数	3.7	2.7	2.8	3.0	4.9
不読者	5.7 (19)	10.4 (17)	1.8 (1)	3.1 (1)	7.9 (17)

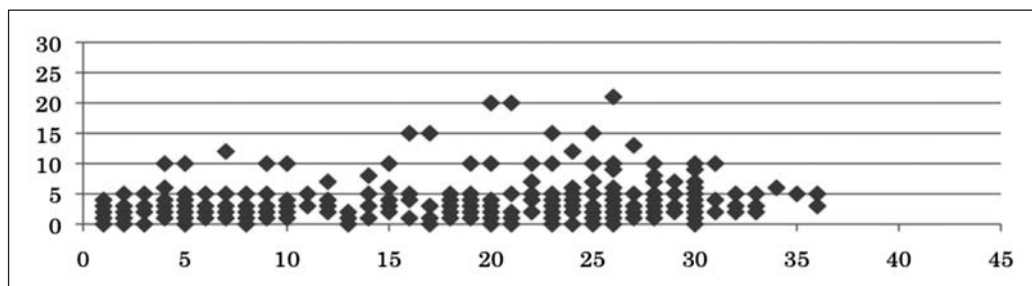


図1 小学校教諭の教職年数別に見た読書冊数分布

中学校教諭では、小学校教諭と同様に、教職年数15年を境にして、2つのグループに分けられる。教職年数15年未満では、ほとんど5冊以内に分布している。教職年数18～29年くらいの教員グループで読む冊数が多いことが認められる。

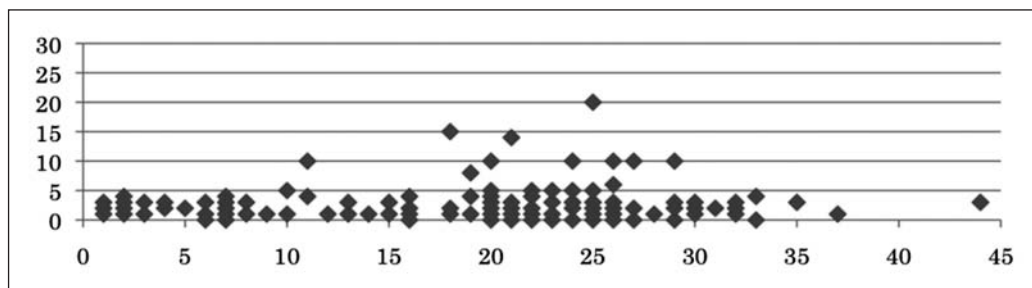


図2 中学校教諭の教職年数別に見た読書冊数分布

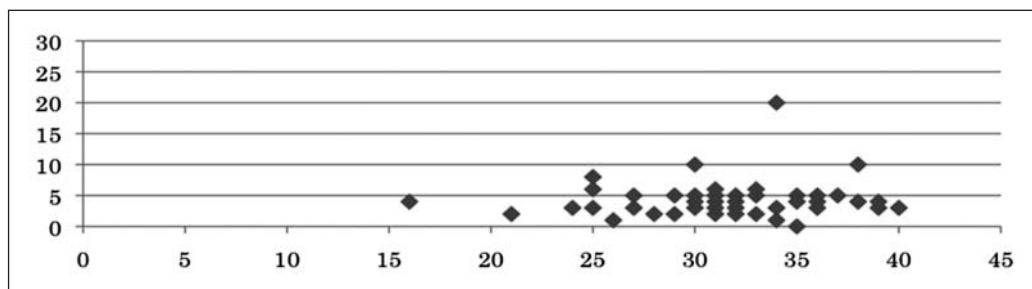


図3 小学校管理職の教職年数別に見た読書冊数分布

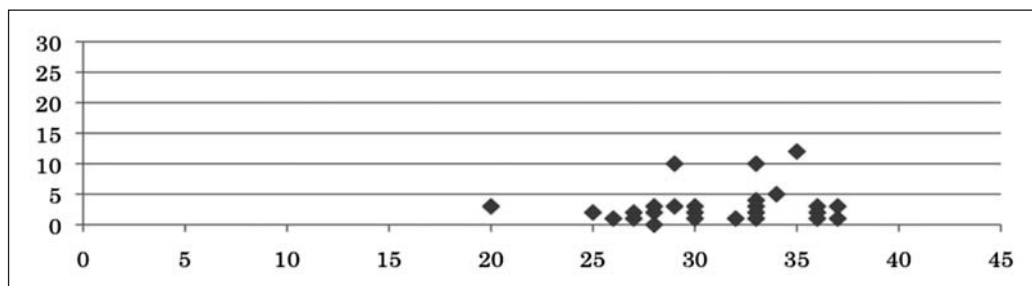


図4 中学校管理職の教職年数別に見た読書冊数分布

図3及び図4から管理職についてみると、小学校中学校で顕著な相異は認めにくい。平均冊数は、小学校2.8冊に対して中学校3.0冊であるが、どちらかといえば小学校の方が中学校よりも教職年数による冊数の差が大きい。管理職で、一ヶ月に10冊以上という冊数は、きわめて多いと考えられる。小中学校それぞれ3人ずついる。

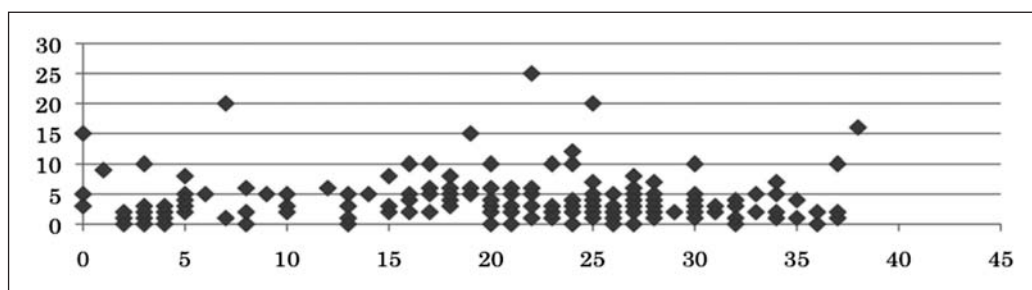


図5 司書教諭・図書館担当の教職年数別に見た読書冊数分布

図5から司書教諭・図書館担当に固有な傾向は認めにくい。しかし、A調査の場合同様、教職年数の長い教員の方がよく読書している状況を読み取ることはできよう。

2. 読書に関する意識

読書についての観念を、「①大切だ②役立つ③面白い④必要だ⑥楽しい」という肯定的なイメージを持つ5項目と「⑦苦手だ⑧つらい⑨退屈だ⑩有害だ」という否定的なイメージをもつ4項目、さらに「⑤得意だ」という実践的な意見を用意して、10項目それぞれに対する回答を、そう思う場合はY、そう思わない場合はN、どちらでもない場合には?を選択させた。

表3から示されるように、小中学校教諭・管理職、図書館担当教諭いずれにおいても、9割以上が読書は「大切」で、「役立つ」もの、「必要」なものであると肯定している。特に中学校管理職は「大切」「役立つ」「必要」の全項目で100%、小学校管理職は「大切」「必要」の項目で100%を占めており、読書のもつ価値を認めていると言えよう。

読書は得意かという問いには、得意だとする割合が28.1～43.5%と低くなり、得意でないという割合が16.7～27.7%と高いのが注目される。特に図書館担当者と小学校管理職以外では、得意でない回答の割合が27%を超えている。

表3 読書に関する意識

(数値は%)

意見	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・図書館担当		
	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?
①	97.6	0.9	1.5	97.5	1.2	1.2	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	99.1	0.0	0.9
②	97.0	0.3	2.7	96.3	0.6	3.1	98.2	1.8	0.0	100.0	0.0	0.0	96.3	0.9	2.3
③	89.0	2.4	8.6	83.4	4.3	12.3	92.9	0.0	7.1	75.0	0.0	25.0	95.4	3.2	1.4
④	96.4	1.5	2.1	95.7	0.6	3.7	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	97.7	0.5	1.9
⑤	33.3	27.7	39.0	33.1	27.0	39.3	41.1	17.9	41.1	28.1	28.1	43.8	43.5	16.7	39.4
⑥	81.8	3.6	14.6	77.9	4.9	17.2	85.7	0.0	14.3	71.9	3.1	25.0	91.2	3.7	5.1
⑦	12.9	63.7	23.5	20.2	58.9	20.9	7.1	73.2	19.6	15.6	50.0	34.4	6.5	69.4	24.1
⑧	5.7	77.1	17.3	11.7	72.4	16.0	1.8	85.7	12.5	3.1	84.4	12.5	1.9	76.9	21.3
⑨	3.9	84.5	11.6	5.5	77.9	16.6	0.0	94.6	5.4	6.3	84.4	9.4	4.2	75.9	19.9
⑩	1.8	91.7	6.5	1.8	90.8	7.4	1.8	91.1	7.1	3.1	96.9	0.0	1.9	81.5	16.7
計	336人			163人			56人			32人			216人		

【意見：①大切だ ②役立つ ③面白い ④必要だ ⑤得意だ ⑥楽しい ⑦苦手だ ⑧つらい ⑨退屈だ ⑩有害だ】

それでは、読書は「つらい」「退屈」「有害」なのかという意見については、どの属性でも3項目について否定的回答が7割以上を占めている。ただし、3項目について肯定的回答が若干名ながら存在することは注目される。読書は決して「有害な」ものでなく、大切に役立つものである。観念的には望ましいものであるが、自分としては得意というほどではない。とくに中学校教諭では、20.2%が苦手であると回答し、11.7%がつらいと感じている。

こうした回答から、教師の読書に対する建前と本音とが認められないだろうか。つまり、読書そのものは（児童生徒にとって）大切であり必要なものである。しかし、自分が読書すると考えた場合、実は退屈でつらいものである。だから得意かと問われると「どちらでもない」「苦手」と答えざるを得ないのであろう。

3. 読書指導に関する意識

次に、読書指導について、①学校教育の課題認識②読書指導に関する知識③読書指導の方法④読書指導を担当する能力⑤読書指導の成果のとらえ方⑥朝読の効果について、という6つの観点から27の意見について質問した。

(1) 学校教育の課題認識（学校教育における読書指導の位置付け）

「読書指導は学校教育の課題である」という意見については、管理職と図書館担当者は肯定する割合が、教諭に比べて高い。特に、小学校管理職では91.1%が「そうだと思う」と回答している。読書指導を学校経営の中でどのように位置付けるかについては、属性によって相異があると言える。

中学校教諭において、「1 学校教育の課題である」という意見に「そうだと思う」と回答した者が52.8%であり、小学校教諭や管理職の回答と比較して著しく低く、「そうだと思わない」者が16.0%、わからないとする者が32.3%を占めていることが注目される。

さらに「25 読書指導は、学級指導の中心的課題である」という意見について中学校教諭だけ69.3%が否定している。「7 読書指導は、全校で取り組むものである」という意見については、

中学校教諭だけ9.2%が「そうだと思う」と他の属性とは異なった傾向を示している。ところが、「27 クラブ指導よりも優先すべきである」という質問への回答では「そう思う」という肯定する回答が小学校教諭や管理職などと比較して低い。中学校教諭には読書指導について何かあるように思われる。

(2) 読書指導に関する知識

読書指導に関する知識は、「2 読書指導の方法について、知っている」「3 読書指導の原理について、知っている」という2つの意見で質問した。方法と原理について具体的に説明はしていない。したがって、回答結果は各自の判断による。全般的に「どちらでもない」という回答の割合が高い。

属性別では、読書指導の方法や原理について「知っている」という者の割合は、教諭よりも管理職の方が高い。管理職としての自尊心からなのか、勤続年数の長さに関係しているのか、興味深いことである。

「読書指導について自信がある」という意見では、小学校管理職の16.1%が「そうだと思う」

表4 読書指導の学校教育における位置付け（Y：そうだと思う N：そうだと思う？：どちらでもない）（数値は%）

意見	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・図書館担当		
	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?
1	71.4	8.0	20.2	52.8	16.0	32.3	91.1	3.6	5.4	87.5	6.3	6.3	85.2	2.8	12.0
7	94.6	2.4	3.0	79.8	9.2	10.4	100.0	0.0	0.0	90.6	0.0	9.4	94.6	1.4	3.7
8	8.0	82.1	9.5	16.0	62.6	20.9	5.4	91.1	3.6	3.1	84.4	12.5	9.3	75.5	14.8
25	14.6	38.4	46.4	3.1	69.3	26.4	16.1	30.4	53.6	3.1	50.0	46.9	18.5	25.5	53.7
27	29.2	17.6	16.7	16.6	18.4	16.0	30.4	30.4	23.2	18.8	34.4	15.6	25.0	24.5	49.1
計	336人			163人			56人			32人			216人		

- 1 読書指導は、学校教育の課題である。
 7 読書指導は、全学で取り組むものである。
 8 読書指導は、学校教育の任務として重要なものではない。
 25 読書指導は、学級指導の中心的課題である。
 27 読書指導は、クラブ指導よりも優先すべき課題である。

表5 読書指導に関する知識（Y：そうだと思う N：そうだと思う？：どちらでもない）（数値は%）

意見	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・図書館担当		
	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?
2	20.8	41.1	38.1	14.7	59.5	25.2	30.4	19.6	50.0	28.1	46.9	25.0	25.0	24.1	50.5
3	6.0	66.4	27.7	9.2	74.2	16.0	14.3	42.9	42.9	15.6	59.4	25.0	4.6	48.6	46.3
4	3.6	66.4	30.1	7.4	71.2	20.9	16.1	37.5	46.4	6.3	53.1	40.6	6.0	51.4	41.7
26	37.8	23.2	13.1	46.6	20.9	8.0	28.6	16.1	7.1	46.9	3.1	6.3	18.1	57.9	23.2
計	336人			163人			56人			32人			216人		

- 2 読書指導の方法について、知っている。
 3 読書指導の原理について、知っている。
 4 読書指導の方法について、自信がある。
 26 読書指導について、専門的に学んだことがある。

と回答する以外、否定的回答が顕著である。たとえば、小学校教諭の66.4%，中学校教諭の71.2%が自信ないと回答している。それぞれ、その属性の教諭の三分の二以上である。図書館担当者では過半数（51.4%）が自信ないと回答している。つまり学校教師は読書指導について自信を持っていないと言える。

「26 読書指導について、専門的に学んだことがある」という意見については、司書教諭・図書館担当以外は「そうだと思う」と回答する者が「そうだと思わない」よりも遙かに多い。ところが司書教諭・図書館担当教諭では「いいえ」が57.9%と回答している。「専門的に学ぶ」ことのとらえ方による違いとしても、司書教諭資格取得時に受講する科目『読書と豊かな人間性』がこの回答に反映していないように考えられる。

(3) 読書指導の方法

読書指導の実施方法について個人か集団かという質問では、すべての属性で「集団」という意見が支持されている。特に、小学校では教諭・管理職どちらも集団での指導の方法を支持している。教師は、読書指導とは集団を対象として実施することと受け止めている。

場所については、いずれの属性でも過半数が「11 教室で実施できるものである」と回答している。教師は、読書指導というのは「12 図書館を使って行うべきもの」とは思わない。ところが、管理職としては「20 読書指導は、学校図書館が整備されていないとできない」という意見を支持している。特に小学校管理職の83.9%が「そう思う」と回答している。この意見について、司書教諭・図書館担当では、支持する者の割合が23.2%，支持しない者の割合が40.3%と学校図書館の整備を条件として重視していないことが注目される。

読書指導は、本来「図書館を使って行うべき」（22.2%）であるが、「学校図書館が整備されていないとできない」ことはなく（40.3%）、「教室で実施できるものである」（53.2%）という司書教諭・図書館担当の回答は、学校図書館が十分整備されていないという現状を考慮した教師の素直なとらえ方かもしれない。

表6 読書指導の方法（Y：そうだと思う N：そうだと思わない？：どちらでもない）（数値は%）

意見	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・図書館担当		
	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?	Y	N	?
9	12.8	56.0	31.3	14.1	47.9	37.4	10.7	67.9	21.4	6.3	50.0	43.8	17.6	39.4	42.6
10	43.5	16.4	40.2	38.0	13.5	47.9	53.6	19.6	26.8	43.8	9.4	46.9	31.9	16.2	51.4
11	65.2	9.8	25.0	57.1	14.1	28.2	67.9	14.3	17.9	56.3	12.5	31.3	53.2	11.1	35.2
12	20.8	39.3	39.9	22.7	36.8	39.9	19.6	32.1	48.2	6.3	59.4	34.4	22.2	24.5	52.3
20	59.8	9.5	30.4	32.5	20.2	47.2	83.9	3.6	12.5	68.8	9.4	21.9	23.2	40.3	35.2
計	336人			163人			56人			32人			216人		

9 読書指導は、個人を対象として行うものである。

10 読書指導は、集団を対象として行うものである。

11 読書指導は、教室で実施できるものである。

12 読書指導は、図書館を使って行うべきものである。

20 読書指導は、学校図書館が整備されていないとできない。

表7 読書指導の担当（Y：そうだと思うN：そうだと思わない？：どちらでもない）（数値は%）

意見	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・図書館担当		
	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？
5	5.1	85.1	9.8	6.1	71.8	21.5	1.8	89.3	8.9	9.4	75.0	15.6	7.4	74.5	18.1
6	7.1	78.9	13.7	11.7	66.3	20.9	3.6	80.4	16.1	9.4	87.5	3.1	3.7	77.8	18.5
18	80.4	4.5	15.2	68.1	6.1	25.8	87.5	7.1	5.4	90.6	0.0	9.4	24.5	21.3	53.7
21	35.4	18.8	45.2	23.3	28.2	48.5	42.9	14.3	42.9	37.5	18.8	43.8	60.9	7.9	21.8
22	14.3	51.2	34.2	12.9	50.9	36.2	39.3	17.9	42.9	37.5	34.4	28.1	36.1	16.2	46.8
計	336人			163人			56人			32人			216人		

5 読書指導は、国語科が担当するものである。

6 読書指導は、司書教諭（図書館係）が担当するものである。

18 自分は読書指導に真剣に取り組んできた。

21 教員は、読書指導を担当するべきである。

22 教員は、読書指導を担当する能力がある。

（4）読書指導を担当する能力

「5 読書指導は、国語科が担当するものである」という意見については、いずれの属性でも否定的回答が大勢を占める。特に、小学校では「そうだと思わない」という割合が教諭で85.1%、管理職で89.3%を占めている。

「6 読書指導は、司書教諭（図書館係）が担当するものである」という意見については、いずれの属性でも否定的回答が大勢を占める。特に、管理職の方が「そうだと思わない」割合が教諭に比べて高く、中学校管理職ではその割合が87.5%である。管理職としては、読書指導を司書教諭や図書館担当者だけに押しつけるのではなく、全ての教師が担当することを期待していると考えられる。

「21 教員は、読書指導を担当するべきである」という意見では、管理職で「そうだと思う」割合が高いこと、特に司書教諭・図書館担当で60.9%と一段と高いことが注目される。

それでは「担当する能力がある」のかというと、小中学校教諭では、過半数が「そうだと思わない」と回答している。読書指導を担当する能力について、教諭と管理職との間で大きな意識の相異が認められる。

管理職と図書館担当は、教員は読書指導を「担当する能力がある」のだから「担当すべき」であると捉えている。「自分は読書指導に真剣に取り組んできた」と肯定する管理職がおよそ9割存在することが、こうした回答に反映しているであろう。

（5）読書指導の成果のとらえ方

読書指導の成果を、①読解指導、②読む、書く、話す、聞くという4つの国語的領域、③読む冊数という3つの観点から質問した。

全体として読解指導だとする回答は、中学校管理職（12.5%）以外、ほとんど支持されていない。読解指導ではないという回答が7割以上を占めている。つまり、読書指導の成果は読解指導ではないと理解しているようである。

それでは、「一冊でも多くの本を読ませること」なのかというと、小学校管理職（21.4%）と

表8 読書指導の成果（Y：そうだと思う N：そうだと思わない？：どちらでもない）（数値は%）

意見	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・図書館担当		
	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？
13	6.8	79.2	14.0	6.7	72.4	20.2	3.6	69.6	26.8	12.5	71.9	15.6	2.8	76.9	19.0
14	33.6	36.6	29.2	37.4	34.4	28.2	50.0	21.4	28.6	53.1	28.1	18.8	37.0	29.2	32.9
15	28.0	39.3	32.1	28.2	39.9	31.9	41.1	25.0	33.9	50.0	31.3	18.8	28.2	36.6	34.7
16	22.9	42.0	34.5	20.9	42.9	36.2	28.6	33.9	37.5	34.4	43.8	21.9	23.6	37.5	38.4
17	20.2	32.7	47.0	12.9	44.2	42.9	30.4	23.2	46.4	21.9	34.4	43.8	25.0	37.0	38.5
23	12.2	43.5	44.3	6.1	57.1	36.8	21.4	32.1	46.4	12.5	46.9	40.6	21.3	40.7	36.6
計	336人			163人			56人			32人			21		

13 読書指導とは、読解指導のことである。

14 読書指導とは、文章を読む力をつけることである。

15 読書指導とは、文章を書く力をつけることである。

16 読書指導とは、話す力をつけることである。

17 読書指導とは、聞く力をつけることである。

23 読書指導の目標は、一冊でも多くの本を読ませることである。

司書教諭・図書館担当（21.3%）を除いて、この意見を支持する割合は高くない。いずれの属性でも「どちらでもない」という保留回答の割合が高い。

国語的領域についてみると、属性によって相異が認められる。小中学校教諭は、読む、書く、話す、聞くという全項目について肯定よりも否定的回答が強い。管理職は、「読む」「書く」の2項目ではおよそ半数が「そうだと思う」と支持している。同時に、小中学校とも全項目で肯定する割合が高いことに注目される。小中学校教諭と司書教諭・図書館担当が成果として認めるのは「読む力をつけること」に焦点が当てられているのに対して、管理職が読書の成果として抱く期待は多岐にわたっている。

中学校教諭を除いて、「16 読書指導とは、話す力をつけることである」「17 読書指導とは、聞く力をつけることである」という意見がそれぞれ20%以上の教師によって支持されていることは、読みの指導が読み書きの力に限定されないことを示しており、好ましいことである。

（6）朝読の効果について

朝の一斉読書は、今日すべての学校段階で実施されている。平成17年8月現在で、全国2万以上の学校で実施されており、すでに学校文化として定着した感がある。

朝の一斉読書は読書指導に役立っていると捉えているのか、あるいはそうでないのか、敢えて二度質問した。司書教諭・図書館担当で68.1%が「19 朝の一斉読書は、読書指導に役だっている」と回答している以外、「そうだと思う」という割合は低く、「そうだと思わない」という回答が優勢である。特に管理職では「そうだと思う」という回答が小学校14.3%、中学校3.1%と著しく低い。

では「24 読書指導に役立たない」のかというと、どの属性も否定的回答が6割以上を占める。中学校管理職で93.8%、中学校教諭で81.6%が「そうだと思わない」と回答している。

小学校教諭の11.3%、管理職10.7%が「そう思う」と回答しており、中学校と対照的である。

結局、朝の一斉読書は読書指導に役立つとは思いますが、役立っているかと問われると返事に困るという複雑な反応を提示している。

表9 朝の一斉読書について（Y：そうだと思うN：そうだと思わない？：どちらでもない）（数値は%）

意見	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・図書館担当		
	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？	Y	N	？
19	26.8	49.1	23.8	27.0	48.5	24.5	14.3	67.9	17.9	3.1	78.1	18.8	68.1	11.6	19.4
24	11.3	75.9	12.8	6.7	81.6	11.0	10.7	62.5	26.8	3.1	93.8	3.1	2.8	73.6	23.2
計	336人			163人			56人			32人			216人		

19 朝の一斉読書は、読書指導に役立っている。

24 朝の一斉読書は、読書指導に役立たない。

3. 学校図書館の活性化に関する条件

読書指導に当たって学校図書館の充実は大切な条件だと考えられる。先に2. (3)読書指導の方法において、学校教師は、読書指導の前提条件として学校図書館との関係について、必ずしも重視していないことが示された。「読書指導は、図書館を使って行うべきものである」という意見について、読書指導は、本来「図書館を使って行うべき」(22.2%)であるが、「学校図書館が整備されていないとできない」ことはなく(40.3%)、「教室で実施できるものである」(53.2%)という司書教諭・図書館担当の回答は、学校図書館が十分整備されていないという現状を考慮したものと理解される。それでは、調査に回答した教師たちは、学校図書館の活性化についてどのように考えているのであろうか。

表9は、学校図書館の活性化にとって必要な8つの条件を用意して、それぞれに優先順位を質問した結果を上位3位まで表示したものである。8項目は、大きく次の3つのカテゴリーに区別される。

- ①行政的事項 [豊富な予算、教育委員会の指導力、司書教諭の配置]
- ②人間関係事項 [同僚の理解と協力、子どもからの期待、保護者やボランティアの協力]
- ③教員の意識 [教員のやる気、校長の意欲]

小学校教諭では、第1位に「同僚の理解と協力」(20.2%)次に「保護者やボランティアの協力」(19.3%)など、図書館整備に関わる人間関係を重視していることが注目される。「司書教諭の配置」が13.7%とやや高い数値を示しているが、それら以外の項目を取り上げる割合はごく低い。

中学校教諭は、まず「司書教諭の配置」(31.9%)を重視し、次に「保護者やボランティアの協力」(23.3%)「同僚の理解と協力」(15.3%)と、行政的整備と人間関係とを重視している。

管理職では、小学校と中学校で第1位に重視される事項が対照的である。小学校管理職は、まず「豊富な予算」(28.6%)をあげ、次に「保護者やボランティアの協力」(12.5%)と続く。小学校管理職では、割合は低いが「校長の意欲」(1.8%)が第1位で取り上げられている。

中学校管理職は、まず「司書教諭の配置」(21.9%)「豊富な予算」(18.8%)と行政的事項に重点を置いている。中学校管理職では、「教員のやる気」「校長の意欲」「子どもからの期待」を第1位に取り上げる意識は全く見られない。

司書教諭・図書館担当では、「教員のやる気」(33.8%)が第1位に取り上げられ、次に「豊富な予算」(23.6%)「司書教諭の配置」(11.1%)と続いている。まず、教員のやる気が大切であり、それを活かすために豊富な予算や司書教諭の発令が必要であるという、自己の立場を踏まえた現実的な回答であろう。ただし、「同僚の理解と協力」を指摘する割合は3.2%と低いことが注目される。

表10 学校図書館活性化の条件

活性化の条件	小学校教諭			中学校教諭			小学校管理職			中学校管理職			司書教諭・担当者		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
豊富な予算	3.0	11.0	14.3	4.3	7.4	17.2	28.6	25.0	10.7	18.8	25.0	31.3	23.6	13.4	9.3
教員のやる気	2.1	2.7	4.5	3.1	4.9	6.1	1.8	1.8	10.7	0.0	6.3	12.5	33.8	22.7	13.9
校長の意欲	1.8	6.8	15.2	3.7	6.7	12.9	1.8	7.1	16.1	0.0	6.3	12.5	7.4	22.7	15.3
教育委員会	5.4	9.5	7.7	8.0	6.7	14.1	1.8	3.6	14.3	3.1	0.0	3.1	3.7	2.8	7.4
同僚の理解	20.2	19.6	10.4	15.3	27.0	8.6	8.9	12.5	7.1	9.4	25.0	9.4	3.2	10.7	24.1
子どもの期待	1.5	8.3	16.1	1.8	7.4	12.9	0.0	1.8	7.1	0.0	0.0	3.1	5.6	4.2	5.1
司書教諭配置	13.7	24.4	22.6	31.9	20.2	18.4	5.4	14.3	28.6	21.9	28.1	28.1	11.1	7.9	5.1
ボランティア	19.3	6.8	56.3	23.3	11.0	46.0	12.5	7.1	51.8	12.5	6.3	50.0	0.9	4.6	8.3

全体的な傾向として、「教育委員会の指導力」や「子どもからの期待」を重視する傾向は認められない。学校図書館の活性化については、行政的整備に依存すると言うよりも保護者やボランティア、同僚の理解と協力など人間関係を重視する傾向が伺える。「子どもからの期待」は、司書教諭・図書館担当で5.6%が第1位にあげていることが注目される。

司書教諭・図書館担当以外で、「教員のやる気」を第1位で指摘する割合がきわめて低いことは、教師の学校図書館に対する一般意識の反映であろう。つまり、学校図書館は学校教育において必要なことは否定しないが、「教材研究や個人研究などの情報源は書店」であり、学校図書館が「なければ教育に支障がある[と思う]」が、あっても役に立たないのが学校図書館」である。⁶⁾

Ⅳ：[考 察]

1. 読 書 冊 数

表10は、毎日新聞社『読書世論調査2005年版』を用いて一般及び児童・生徒の読書実態と今回の教員調査とを比較したものである。

子どもの本ばなれ、読書ばなれが指摘されているが、教師の本ばなれ、読書ばなれはそれ以上に深刻である。『読書世論調査2005年版』の読書世論調査において集計された「専門職など」が読んでいる単行本と文庫・新書の合計値よりも冊数は多い。しかし、小学校教諭、中学校教諭の冊数は、いずれも児童・生徒の読んでいる冊数よりも少ない。つまり、一般成人に比べると平均

表11 一ヶ月間の読書冊数の比較

学校種	児童・生徒		教 諭		管理職		司書教諭・図書館担当		※専門職
	冊数	不読率(%)	冊数	不読率(%)	冊数	不読率(%)	冊数	不読率(%)	
小学校	7.7	7.0	3.7	5.3	2.8	8.9	4.9	7.9	2.4
中学校	3.3	18.8	2.7	10.4	3.0	3.1			
高等学校	1.8	42.6							

※専門職などが読んでいる単行本と文庫・新書の合計値

6) 拙稿「教師の学校図書館に対する意識構造に関する研究」『児童教育研究』第7号 1998.3 84頁参照。

冊数は多いが、児童・生徒に比べると少ない。不読率については小学生と同等かそれ以上である。

教師の読書実態を数量的な観点から見ると、教師と子どもとは読む内容が異なることを考慮したとしても、指導する側の読書の取り組みが乏しいと言わざるを得ない。学習指導要領第1章総則で全ての教師に求められる「児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」を実現するには、教師自身の読書活動の充実が不可欠であろう。それが充実しているとは理解しがたい数値である。

学校段階では、中学校で不読率が高まる傾向から考えると、中学校教諭の不読率10.4%は看過できない数値である。

2. 読書意識

読書することは、教師にとってどのように受け止められているのであろうか。読書の特性に対する回答をとりまとめた表11からは、本音と建て前とが伺える。

読書は、必要であり、役立つものであり、大切だと観念的には強く肯定する。ところが、自分の問題として捉えてみると、「面白い」「楽しい」という意識がやや低下する。さらに、行動レベルで考えてみると「得意だ」という割合は急激に低くなり、「苦手だ」という回答が中学校教諭で20.2%に達するなど、観念的には価値を認めるが、自分の読書への取り組みという観点からは消極的な姿勢が見られるのではなかろうか。

たとえば、小学校学習指導要領第2章第1節国語第2各学年の目標及び内容に示される「楽しんで読書しようとする態度」「幅広く読書しようとする態度」「読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度」の育成が可能だろうか。小学校学習指導要領第2章第1節国語第3指導計画の作成と内容の取扱い1(5)第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導において、「読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにすること」「必要な本や資料を選ぶことができるように指導すること」「児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること」など、教師に求められる読書指導事項は、こうした意識をはるかに超えるものと言えよう。

読書指導の成果とは、「文章を読む力をつけること」だと捉え、「教員は、読書指導を担当する能力がある」という意見に対して小中学校教諭の過半数が否定的回答を寄せていることから、読書指導に関する学校教師の知識や能力について不安や戸惑いがあるのではなかろうか。読書指導が教育課程の中に明確に位置付けられているにも拘わらず、教師の読書指導の方法に関する知識や理解は伴っていない。

表12 読書の特性に対する回答

特性	小学校教諭	中学校教諭	小学校管理職	中学校管理職	司書教諭図書館担当
大切だ	97.6	97.5	100.0	100.0	99.1
役立つ	97.0	96.3	98.2	100.0	96.3
必要だ	96.4	95.7	100.0	100.0	97.7
面白い	89.0	83.4	92.9	75.0	95.4
楽しい	81.8	77.9	85.7	71.9	91.2
得意だ	33.3	33.1	41.1	28.1	43.5
苦手だ	12.9	20.2	7.1	15.6	6.5

3. 今後の課題

この半世紀の間に、日本人の特性は大きく変容してきた。本を読むことが生活の中から失われた結果、「読み且つじっくりと考えること」から「絶え間なく多くの刺激を受けて意味もなく反応すること」に多忙を極めている。

読書指導はすべての教師の責任事項である。学習指導要領総則での規定は、すべての教師に読書活動の充実を求めているのである。学校教育法第21条(教育の目標)では、「五 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。」と定められている。従来、教師は読書についてなんらかの望ましい意識を持っており、読書指導を担当する能力が備わっており、読書指導を実施する方法・技術を習得しているということが前提条件として存在していた。しかし、その前提は素直に首肯できない。大学の講義科目に「読書科」や「読書指導」は存在しない。平成9年の司書教諭講習科目改訂に伴って『読書と豊かな人間性』という科目が誕生したが、その受講者は司書教諭資格取得を目指す者に限定される。

現行の教育職員免許法及び同法施行令には「読書」に関する規定はまったく認められない。教員採用試験においては、一部の県で出題されるにとどまっている。管理職選考試験においては、2005年学校図書館法一部改正時期に学校図書館および読書に関する出題が一時的に増大したが、その後再び激減している。⁷⁾ 読書が教員の採用や昇格などに関わって問われることは希であり、まったくの偶然性に左右されている。結局、教師となった人間の個人的努力や過去の経験など、偶然的な要素に支配されているとすれば、学校教育における読書指導は本質的に制度的欠陥を内包していると言えよう。

21世紀を生きる子どもの育成において読書の役割を期待するのであれば、次のような抜本的改革が今後の課題である。

- ①教員養成段階で読書に関する専門的指導を実施すること。すでに2005年3月31日、自民、公明、民主、社民、無所属の議員で構成する超党派の「活字文化議員連盟」は、「文字・活字文化振興法」の骨子案で、教員養成課程に「図書館科」または「読書科」の導入を提言している。⁸⁾
- ②教員採用時にその力量を確認するような仕組みを設定すること。教員採用試験に、読書や読書指導に関する問題を必ず出題する。あるいは読書(指導)に関する小論文を課す。
- ③さらに現職研修において実際的な読書指導について研修を受けることを義務化すること。
- ④管理職選考試験では全員にその意識と力量とを求めること。

[2009. 9. 28 受理]

7) 拙稿「学校図書館の活性化に関する研究。管理職選考試験における学校図書館に関する出題を中心にして。」『安田女子大学紀要』37〔2008年度〕2009.3 143頁。

8) 「教員養成課程に『読書科』議連が『活字文化振興法』の骨子案」日本教育新聞 2005年4月11日。

資料1 不読者45年の推移（『学校読書調査』（毎日新聞）1964年版～2008年版を元にして作成）

学校読書		小学生						中学生						高校生					
調査時期		4年		5年		6年		1年		2年		3年		1年		2年		3年	
回	年	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
9	1963	0.1	—	0.9	0.3	0.6	0.9	11.5	5.8	10.6	8.0	19.4	13.5	12.9	6.9	17.5	8.2	15.8	9.8
10	1964	12.9	4.9	7.3	4.1	7.4	6.8	35.1	25.0	42.8	20.9	44.5	28.9	43.4	20.2	37.9	17.5	34.3	18.4
11	1965	11.0	9.1	9.8	7.3	14.6	7.9	30.3	20.2	34.0	16.7	38.8	22.8	40.3	19.1	36.0	16.0	37.1	22.1
12	1966	16.5	9.6	19.4	10.3	17.5	11.0	34.1	22.9	39.0	24.1	51.4	32.7	47.3	20.2	36.6	16.8	39.6	19.2
13	1967	17.9	9.8	18.5	12.1	21.6	11.0	34.4	21.8	27.1	16.2	40.0	22.5	38.4	19.3	32.4	19.2	34.7	16.7
14	1968	14.9	9.9	19.1	11.9	18.2	10.7	32.4	20.1	40.1	20.8	47.4	30.2	46.0	26.9	49.8	23.9	46.5	32.1
15	1969	13.8	9.8	17.4	11.5	20.5	13.2	44.3	26.0	48.2	30.6	63.3	44.0	53.4	37.4	47.5	31.3	53.7	29.4
16	1970	8.9	3.3	17.2	6.9	19.6	12.1	40.6	25.7	44.1	22.1	52.5	31.2	53.9	39.7	54.7	33.0	51.9	35.5
17	1971	16.2	7.9	14.7	11.6	17.6	11.2	33.7	19.7	41.3	26.2	51.1	38.3	54.7	39.1	46.5	15.7	46.6	25.1
18	1972	15.7	6.6	14.5	8.3	20.4	13.0	30.9	13.8	43.6	20.6	57.3	36.7	62.3	39.7	50.6	26.4	52.5	22.3
19	1973	11.8	5.2	12.2	7.4	15.3	8.7	35.0	16.6	36.2	18.9	50.6	28.8	46.4	24.3	43.1	19.2	38.7	17.9
20	1974	15.7	6.3	14.3	6.4	20.5	10.7	34.7	22.8	37.1	22.9	52.9	38.7	47.4	27.0	44.4	30.3	45.4	27.2
21	1975	9.0	4.6	15.2	4.8	18.0	7.0	28.3	16.5	37.1	19.4	46.2	31.3	44.9	24.9	39.0	26.5	45.3	30.5
22	1976	13.7	4.7	19.0	10.4	25.9	16.0	38.8	17.8	43.6	25.2	58.1	41.1	51.0	36.2	51.1	24.1	52.2	31.4
23	1977	12.6	7.8	16.1	7.9	26.7	13.7	30.1	17.6	36.6	22.0	48.2	34.9	54.3	34.3	54.4	30.0	50.5	32.9
24	1978	17.4	4.1	20.2	7.5	22.9	12.6	37.1	22.3	42.2	22.5	49.6	35.7	54.4	34.7	56.2	30.9	57.7	41.2
25	1979	8.0	2.5	11.6	4.5	25.0	9.5	38.3	19.2	49.9	27.4	56.2	38.1	58.0	37.4	60.1	34.2	57.6	35.7
26	1980	7.2	1.9	10.1	4.9	10.4	5.5	34.1	19.0	53.8	29.3	50.8	35.8	51.5	36.1	57.2	44.3	62.8	40.7
27	1981	9.6	4.4	19.8	7.8	25.4	15.5	40.3	22.6	53.3	34.0	58.9	42.0	57.5	43.2	57.2	47.8	54.8	49.4
28	1982	7.8	3.9	6.6	3.3	15.2	4.6	43.9	25.8	53.0	33.4	54.7	43.0	63.8	48.0	58.9	54.7	59.5	47.3
29	1983	8.6	1.6	12.7	3.8	14.7	8.7	42.9	30.8	50.5	34.1	58.7	46.2	54.9	44.4	64.0	49.7	58.9	52.7
30	1984	6.8	2.3	12.0	2.7	21.4	7.4	40.9	30.7	47.2	37.8	57.1	42.5	56.1	37.5	61.3	42.9	60.1	45.4
31	1985	11.2	4.1	11.0	4.4	22.8	8.6	43.5	26.9	52.7	34.5	63.0	49.1	63.6	41.7	63.1	44.8	61.5	48.3
32	1986	10.0	3.2	14.9	5.5	16.9	7.1	39.9	25.9	58.3	35.7	58.0	42.9	64.9	42.7	60.0	42.9	65.0	51.3
33	1987	7.9	1.7	16.0	3.7	13.6	3.7	38.9	26.7	54.4	38.1	62.4	41.9	60.5	41.7	65.9	49.8	63.3	44.6
34	1988	3.9	0.9	9.2	3.5	17.9	6.3	41.8	22.1	58.2	38.1	62.6	48.2	69.1	50.7	68.8	55.5	62.4	53.5
35	1989	11.2	3.0	14.5	3.4	24.4	5.5	40.6	19.6	53.0	28.1	63.5	43.7	67.8	49.7	70.2	50.2	64.3	42.7
36	1990	7.4	1.3	22.2	6.4	16.2	6.9	39.2	20.2	54.5	34.1	56.9	43.5	62.9	38.1	62.5	49.3	65.8	50.9
37	1991	10.9	2.6	16.6	3.6	19.5	10.7	50.1	26.0	61.1	41.9	64.7	58.2	66.8	54.0	67.9	57.8	66.9	51.8
38	1992	14.2	3.2	15.7	3.1	23.9	9.1	47.0	22.6	57.3	40.4	61.4	45.8	64.5	48.8	70.8	53.8	70.8	53.7
39	1993	11.1	3.5	18.0	6.0	23.9	8.9	53.8	31.8	65.4	44.1	62.5	49.2	66.9	45.8	72.3	57.1	74.0	55.1
40	1994	13.4	4.9	16.2	4.8	27.7	13.2	46.4	33.9	56.2	46.1	62.8	52.8	68.3	53.5	73.3	55.3	72.2	58.1
41	1995	18.4	6.4	25.7	8.8	20.4	12.3	43.3	29.5	57.6	50.1	60.5	48.2	64.4	55.3	63.7	62.3	67.5	58.2
42	1996	12.5	4.7	18.0	5.9	24.0	9.8	48.2	34.0	54.6	47.2	66.8	61.0	70.8	61.3	69.3	64.2	74.2	57.2
43	1997	15.0	5.3	22.6	10.2	23.7	12.6	53.3	35.2	65.6	49.8	68.9	58.0	64.3	64.7	77.4	71.5	74.3	68.4
44	1998	21.6	4.6	24.5	8.1	29.3	9.6	43.7	33.9	61.1	46.2	59.7	46.7	70.3	63.2	70.3	66.9	67.0	66.9
45	1999	13.8	2.7	17.3	5.0	19.4	8.6	47.3	34.1	52.8	42.8	60.4	50.7	69.1	61.1	60.2	58.8	69.2	53.4
46	2000	19.0	7.3	22.5	8.8	28.2	12.5	40.6	21.4	51.7	43.0	56.7	43.2	62.0	52.6	67.0	52.8	66.1	56.4
47	2001	7.3	1.7	17.4	4.2	19.6	10.9	41.6	27.4	54.5	43.1	52.6	42.8	67.0	65.0	74.7	64.8	73.4	59.6
48	2002	8.4	1.7	11.0	2.6	19.0	9.6	27.5	15.2	41.1	28.0	47.6	36.2	54.4	43.5	63.5	52.6	66.6	56.7
49	2003	8.8	1.6	12.8	5.1	19.7	7.7	28.7	19.8	37.9	28.2	46.7	29.9	62.7	52.5	66.4	57.7	65.0	52.3
50	2004	7.3	2.5	8.9	2.4	15.2	6.1	12.6	6.7	27.9	14.5	33.2	17.8	51.7	34.2	52.9	34.1	54.7	36.3
51	2005	4.9	2.2	9.1	2.6	12.2	3.9	18.0	10.7	28.0	20.1	40.2	29.7	57.3	43.7	59.1	45.7	56.9	45.4
52	2006	4.5	1.5	10.2	0.7	12.4	5.8	15.5	9.9	29.6	22.2	35.3	23.2	50.5	44.4	60.1	42.7	64.4	47.6
53	2007	2.5	1.4	5.6	1.0	12.1	4.4	11.9	6.2	29.6	22.2	35.3	23.2	44.6	40.6	55.3	44.4	60.5	42.5

資料2 一ヶ月の平均読書冊数45年の推移(『学校読書調査』(毎日新聞)1964年版～2008年版を元にして作成)

学校読書		小学生						中学生						高校生					
調査時期		4年		5年		6年		1年		2年		3年		1年		2年		3年	
回	年	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
9	1963	6.3	6.6	5.3	5.3	4.7	5.2	3.3	3.8	3.3	3.7	2.3	2.8	2.2	3.0	2.1	3.1	1.8	2.3
10	1964	4.1	5.2	4.3	4.6	3.6	4.2	1.9	2.5	1.8	2.7	1.4	2.1	1.7	2.8	2.2	2.5	1.7	2.3
11	1965	4.7	4.5	3.5	4.1	3.8	4.0	2.1	2.9	1.9	2.9	1.8	2.3	1.8	2.5	1.9	2.7	1.8	2.0
12	1966	3.8	4.7	3.3	3.9	3.5	3.6	2.1	2.1	1.6	2.4	1.4	1.8	1.4	2.1	1.7	2.1	1.7	2.1
13	1967	3.9	4.4	3.3	3.5	2.7	3.6	2.3	2.7	2.7	2.9	1.8	2.4	1.7	2.3	1.9	2.3	1.9	2.3
14	1968	4.0	4.4	4.1	4.3	3.6	3.7	2.4	2.8	1.9	2.7	1.4	2.0	1.4	1.8	1.2	1.9	1.4	1.6
15	1969	5.1	5.1	3.8	4.6	3.0	3.2	1.5	2.7	1.3	1.9	0.9	1.3	1.0	1.5	1.3	1.7	1.0	1.6
16	1970	5.4	6.8	3.6	4.9	3.5	4.1	1.8	2.5	1.7	2.6	1.1	1.9	1.1	1.6	1.2	1.8	1.2	1.5
17	1971	4.4	4.7	3.9	4.4	3.2	4.0	2.2	2.7	1.8	2.5	1.3	1.7	1.1	1.8	1.5	2.3	1.4	2.0
18	1972	4.7	5.3	3.4	3.8	3.3	3.6	2.4	2.7	1.8	2.7	1.3	1.8	0.9	1.5	1.2	2.0	1.2	2.2
19	1973	4.9	5.8	4.0	4.9	3.6	3.9	2.4	3.2	2.0	2.7	1.4	1.9	1.4	2.3	1.5	2.2	1.6	2.4
20	1974	4.3	4.9	4.4	5.6	3.0	3.9	2.2	2.6	2.1	2.8	1.3	1.8	1.6	1.9	1.4	2.1	1.5	2.0
21	1975	5.7	6.9	4.2	6.0	4.1	4.9	2.8	3.1	2.3	2.8	1.5	2.1	1.6	2.2	1.9	2.3	1.5	2.0
22	1976	4.7	6.0	3.8	4.8	3.0	3.6	2.3	2.6	1.7	2.4	1.2	1.7	1.4	1.7	1.4	1.9	1.2	1.8
23	1977	5.3	5.8	4.3	5.4	3.5	3.7	3.1	3.3	2.2	2.8	1.7	2.0	1.2	1.9	1.3	1.9	1.4	1.6
24	1978	4.7	6.6	4.0	4.8	3.0	3.7	2.2	2.6	1.8	2.5	1.4	1.7	1.3	1.6	1.2	2.0	1.1	1.6
25	1979	5.1	6.4	4.2	5.9	2.5	3.9	2.3	2.8	1.6	2.4	1.0	1.7	1.1	1.9	1.0	1.8	1.1	1.8
26	1980	6.5	7.3	4.3	6.0	4.4	5.4	2.4	2.8	1.3	2.1	1.3	1.8	1.3	1.6	1.3	1.5	1.0	1.4
27	1981	5.9	6.6	4.5	5.4	3.7	4.1	2.1	2.3	1.4	2.1	1.1	1.5	1.2	1.5	1.2	1.3	1.4	1.3
28	1982	6.2	7.3	5.0	6.2	4.1	5.1	2.2	2.6	1.5	2.2	1.4	1.7	0.9	1.5	1.2	1.2	1.1	1.5
29	1983	6.9	8.9	4.5	6.1	4.2	4.6	2.0	2.3	1.6	1.9	1.2	1.6	1.1	1.4	0.9	1.3	1.4	1.2
30	1984	9.0	11.0	6.7	8.0	4.6	5.2	2.0	2.7	2.0	2.3	1.4	1.8	1.4	2.2	1.2	1.9	1.1	1.7
31	1985	7.0	9.0	5.6	8.0	4.4	5.4	2.2	2.5	1.5	2.3	1.2	1.9	1.1	2.2	1.1	1.7	1.2	1.7
32	1986	6.8	8.9	5.5	6.0	4.0	5.2	1.9	2.5	1.3	2.4	1.2	1.5	1.0	1.7	1.1	1.8	1.1	1.4
33	1987	7.9	10.9	5.2	8.7	5.0	6.8	2.5	3.0	2.2	2.4	1.3	2.2	1.3	2.0	1.1	1.6	1.1	1.7
34	1988	7.3	9.5	6.1	7.7	4.2	6.2	1.7	3.1	1.5	2.2	1.3	1.9	0.9	1.6	0.9	1.4	1.2	1.5
35	1989	7.6	9.7	4.8	7.1	3.6	5.3	2.1	3.2	1.6	2.7	1.3	2.0	0.9	1.6	0.9	1.5	1.1	1.7
36	1990	8.2	12.7	4.3	8.1	4.3	5.7	2.0	3.1	1.6	2.9	1.2	2.0	1.2	2.1	1.4	1.8	1.0	1.5
37	1991	6.4	8.7	4.3	6.3	3.5	5.8	1.9	3.0	1.2	2.9	1.0	1.5	1.1	1.7	1.2	1.3	1.4	1.6
38	1992	7.5	10.6	5.1	6.3	4.0	5.9	1.7	3.2	1.5	2.6	1.4	2.1	1.1	1.5	1.0	1.4	1.0	1.5
39	1993	7.9	9.4	5.4	7.5	3.7	4.9	1.6	2.7	1.1	2.2	1.1	1.8	1.2	1.7	1.1	1.4	0.8	1.4
40	1994	7.0	8.9	5.2	8.2	4.1	6.7	2.1	2.4	1.4	1.8	1.2	1.4	1.2	1.7	0.8	1.4	1.1	1.4
41	1995	5.4	8.0	3.9	5.4	4.5	5.4	1.9	2.8	1.3	2.1	1.2	1.7	1.0	1.4	1.3	1.2	1.0	1.3
42	1996	6.9	9.7	4.8	7.6	4.2	5.7	2.0	2.7	1.9	2.2	1.1	1.3	0.9	1.3	1.0	1.1	0.8	1.3
43	1997	6.1	9.8	4.1	7.3	4.4	6.4	1.3	2.7	1.1	1.8	1.0	1.7	1.3	1.1	1.0	0.8	0.9	0.8
44	1998	9.0	11.3	4.2	7.6	3.5	5.2	2.0	2.4	1.2	2.0	1.3	1.8	1.0	1.2	1.0	1.1	1.1	0.9
45	1999	8.0	11.1	5.9	9.1	4.7	6.9	1.7	2.4	1.4	2.0	1.2	1.9	1.2	1.2	1.0	1.6	1.1	1.5
46	2000	6.6	9.5	4.8	7.1	3.9	5.0	1.8	3.2	1.8	2.5	1.4	2.1	1.3	1.5	1.0	1.3	1.1	1.5
47	2001	7.2	8.3	5.0	7.5	4.4	5.3	2.3	2.8	1.7	2.2	1.5	2.2	1.2	1.0	0.7	1.0	1.0	1.3
48	2002	8.2	11.2	5.7	8.6	5.3	6.5	2.5	3.7	2.0	2.8	1.7	2.2	1.5	1.7	1.6	1.4	1.2	1.4
49	2003	9.7	13.0	6.2	8.3	4.7	6.0	2.8	3.8	2.1	3.7	1.9	2.6	1.1	1.5	0.9	1.4	1.4	1.6
50	2004	8.7	10.8	6.7	8.4	4.5	6.8	3.8	4.2	2.5	3.3	2.7	3.1	1.4	2.1	1.6	2.2	1.5	1.7
51	2005	9.2	11.5	6.9	8.1	4.8	5.9	3.3	3.9	2.4	3.0	2.2	2.4	1.4	1.5	1.6	1.8	1.5	1.6
52	2006	11.5	14.9	7.6	10.7	7.0	7.0	3.4	3.6	2.9	3.0	1.9	2.3	1.6	1.7	1.1	1.7	1.4	1.6
53	2007	12.2	13.5	8.7	9.6	5.4	7.1	3.7	4.1	2.9	3.5	2.8	3.2	1.5	1.9	1.7	1.6	1.4	1.8